

## 履歴書（明朝、12ポイント）

国籍 日本  
現住所 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号

(かたひら たろう)  
片平 太郎  
(昭和〇〇年X X月△△日生)

### 学歴

|    |   |   |                           |
|----|---|---|---------------------------|
| 昭和 | 年 | 月 | **大学工学部入学                 |
| 昭和 | 年 | 月 | 同上（機械工学科）卒業               |
| 昭和 | 年 | 月 | **大学大学院工学研究科博士課程前期2年の課程入学 |
| 昭和 | 年 | 月 | 同上（機械工学専攻）修了              |
| 昭和 | 年 | 月 | **大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程進学 |
| 平成 | 年 | 月 | 同上（機械工学専攻）修了              |
| 平成 | 年 | 月 | 博士（工学）（**大学）              |

### 職歴

|    |   |   |                               |
|----|---|---|-------------------------------|
| 平成 | 年 | 月 | **大学助手（工学部）に採用                |
| 平成 | 年 | 月 | **大学講師（工学部）に昇任                |
| 平成 | 年 | 月 | ++大学助教授（大学院工学研究科）に昇任<br>現在に至る |

- ・「本籍地」は都道府県名のみを記載する
- ・「学歴」は学部入学（又は高専入学）から記載する
- ・「職歴」は「〇〇大学助手（工学部）に採用」と記載する  
※↑順番に注意
- ・平成19年4月の【助手】→【助教】への変更は、「平成19年4月〇〇大学助教（工学部）」と記載する。  
※↑「に採用」の部分は不要
- ・数字は全角で記載する

業績リスト (明朝、10.5ポイント)

見出しに①、②のような通し番号は付けない

題目に「」、 “ ” は付けない

片平 太郎

学術論文

1. 片平太郎, 流研次郎 (← 候補者にアンダーラインを付す。)

\*\*\*\*\* 論文題目 \*\*\*\*\*

日本機械学会論文集 (B編), 第 58 巻 (1992), pp. 1234-1238.

IF: -

「.」を落とさないよう注意

Taro Katahira and Jiro Ryuken (← 和文を英訳した場合等)

\*\*\*\*\* Paper Title \*\*\*\*\*

Journal of Fluids Engineering, Transactions of the ASME, Vol. 99 (1993), pp. 1000-1008.

IF: 1.234, Citation: 5 (ISI)

and の前に「,」は付けない

2. Saburo Tohoku, Taro Katahira, Jiro Ryuken and John F. Kentucky

\*\*\*\*\* Paper Title \*\*\*\*\*

Journal of Fluid Mechanics, Vol. 999 (1993), pp. 567-573.

IF: 2.026, Citation: 15 (Scopus)

123. \*\*\*\*\*

- ・「学術論文」→「学位論文」→「参考論文等」の順番に記載する
- ・学術論文は特に以下の点に注意して記載する
  - 「第 58 巻 (1992), pp. 1234-1238.」と記載する。順番に注意
  - ページは「pp.」と記す。「頁」は不可
  - 和文雑誌の「巻」は「Vol.」でも可
  - 必要に応じて論文の Citation 数を記載する (ISI、Scopus を明記)
  - 古いものから順に記載する
- ・発表予定のものは記載しない
- ・数字は半角で記載する

学位論文

「\*\*\*\*\* 論文題目 \*\*\*\*\*」

博士 (工学) (\*\*大学) 昭和 年 月 日

参考論文等として、以下を選考委員会で選択して掲載する。すべてA4版横書きとすること。

- ① 解説論文 (掲載誌の最新のインパクトファクターも記すこと)
- ② フルペーパーで査読を受けたプロシーディングス論文
- ③ 著書
- ④ 国際会議・国内会議における招待講演 (本人が講演したもののみ)
- ⑤ 国際会議での発表状況 (上記に該当するものを除く。発表者を明確にすること)
- ⑥ 国際会議あるいは国内会議における実績 (組織委員・実行委員等)
- ⑦ 特許取得状況 (出願あるいは登録の別も記すこと)
- ⑧ 海外および国内の研究者との共同研究実績
- ⑨ 受賞 (受賞者名を記載すること)
- ⑩ 競争的研究資金の獲得状況 (金額も記載すること)
- ⑪ その他特筆すべき業績

注意 : 和文雑誌の巻の表記はVol. 58等でも可とし、また英語の著者名は、T. Katahira等でも可とする。参考論文の書式は学術論文に準ずる。業績リスト全体にページを附すこと。